

銀杏学園通信

ぎんぎょう

G I N K Y O



第42回 杏祭 (H30.10)

特集

SPECIAL FEATURE

ブランドコンセプト、タグライン

NEWS & TOPICS

オープンキャンパス&チャレンジ熊保大！開催
リハビリテーション学科合同就職説明会 他

ふれあいサロン

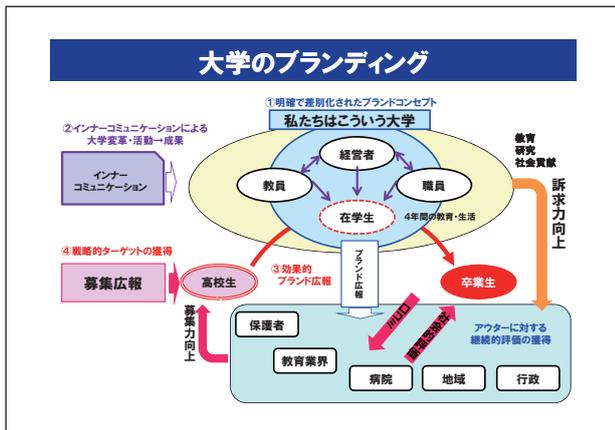
杏祭・サークル INFO

NO. 39
2019
JANUARY
www.kumamoto-hsu.ac.jp

ブランドコンセプト

今年度「ブランドコンセプトとタグラインの策定」を行いました。その背景には「18歳人口の減少」という環境要因が関係しています。「2018年問題」という言葉もありますように、特に2018年から18歳人口が減り始め、向こう8年間で10万人が減少すると見込まれていますので、今後は大学間の学生獲得競争が激化するの必至の状況です。そこで、将来ビジョンの一つである「10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化」のために、本学が自らの「個性」を打ち出してブランド力を構築し、他大学との差別化を図ることを目的として、「ブランドコンセプトとタグラインの策定」を実施しました。

(1) 大学のブランディング



この図は、大学におけるブランディングの理想的な流れを表したものです。

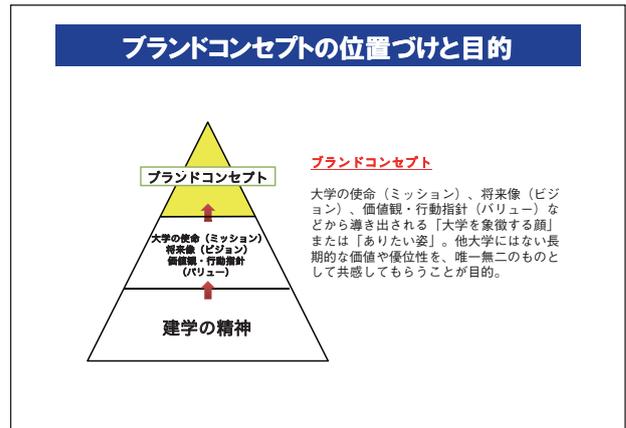
まず、「私たちはこういう大学です」という「①明確で差別化されたブランドコンセプト」を定め、それをもとに教員や職員が、在学生に対して教育や研究を行うことが基本となります。

それに加え、「②インナーコミュニケーションによる大学の変革や活動の成果」により、教育・研究・社会貢献を通して学外への訴求力が向上し、在学生が卒業生になった時に、口コミや社会的評価によってアウトターに対する継続的評価を獲得できることとなります。

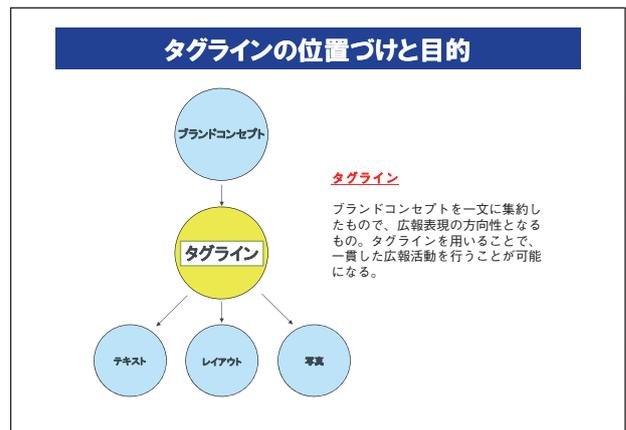
また、大学自体も、学外に向けて「③効果的なブランド広報」を行っていくことで募集力が向上し、「④戦略的ターゲットの獲得」、すなわち、募集広報を通してブランドコンセプトにふさわしい高校生を獲得していくことで、

最終的に本質的なブランドを作り上げていくことが可能になります。

(2) ブランドコンセプトとタグライン



「ブランドコンセプト」とは、大学の使命（ミッション）、将来像（ビジョン）、価値観・行動指針（バリュー）などから導き出される「大学を象徴する顔」または「ありたい姿」のことで、他大学にはない長期的な価値や優位性を、唯一無二のものとして共感してもらうことを目的としています。



また、「タグライン」とは、ブランドコンセプトを一文に集約した広報表現の方向性となるもので、タグラインを用いることで、一貫した広報活動を行うことが可能になります。

なお、今回はこれらに加え、タグラインに込めた想いを綴った「ボディコピー」と、タグライン／ボディコピーを通して伝えたいイメージをビジュアルに表現した「キービジュアル」も制作しています。

& タグラインの策定

(3) 策定プロジェクト



そこで、プロジェクト方式によりブランドコンセプトとタグラインの策定を進めました。

まず、「インナーワークショップ」では、理事長・学長や副学長を始めとする本学の代表者12名が、教職員アンケートを読み込んだうえで集まり、「自学の強み・価値」と、それを活かして「これから育てたい人材像」や「ありたい姿」を描きました。

次に、「ブランドコンセプト&タグラインセッション」では、インナーワークショップで出てきた意見・想い・アイデアを踏まえ、本学にふさわしいブランドコンセプトとタグラインについて議論しました。

そして、「最終決定会議」による検討とブラッシュアップを経て、ブランドコンセプトとタグラインが完成し、それらをもとにボディコピーとキービジュアルを制作しました。

(4) ブランドコンセプト、タグライン、ボディコピー、キービジュアル

その結果、できあがったものが、こちらのブランドコンセプト、タグライン、ボディコピー、キービジュアルです。

今後はこれらの成果物を、様々なシーンで積極的に活用することで本学のブランディングを進め、10年後も20年後も選ばれ続ける大学であるためのブランド力を構築・強化していく予定です。

(経営企画部 今村 修)

ブランドコンセプト

「知識」「技術」「思慮」「仁愛」の四綱領に基づき、学生の主体的で深い学びを通して豊かな人間力と他者を思いやる心を醸成し生涯にわたり成長できる医療人を育成する。それにより、地域に愛され、日本の保健医療をリードする大学を目指す。

タグライン

「生きる」をひらく
かけがえのない一人に

ボディコピー

今、日本の保健医療が大きく変わろうとしています。

加速する少子高齢化、働き方のスタイルや暮らしの多様化、日々進化しつづける医療技術。そして、高まる地域医療の重要性。

そんな変化する時代に求められる医療人になるために。

専門的な「知識」と「技術」を究め、「思慮」深さと「仁愛」の心で他者に接し、生涯を通して成長しつづける。それが、私たちが育成する医療人です。

そのために自ら考え、自ら行動する深い学びの機会を多く提供し、学生一人ひとりの個性を尊重しながら、常に伴走して成長を高めていきます。

地域に愛され、日本の保健医療分野をリードする大学を目指して。

「生きる」をひらく、かけがえのない一人を、これからも、しっかりと、じっくりと育んでいきます。

キービジュアル

「生きる」をひらく
かけがえのない一人に

熊本保健科学大学

オープンキャンパス&チャレンジ熊保大！開催

7月22日（日）と8月19日（日）にオープンキャンパスを開催し、合計で1,709名の多くの高校生、保護者の皆様にご参加いただきました。今年3月に竣工した新アリーナを全体説明の会場とし、来訪者の方々へ新アリーナと西里駅周辺的环境を見ていただきました。当日は模擬実習など、各学科専攻の特色を生かしたブースを多数設置しました。参加された高校生の皆様にとって、将来の職業選択の一助となれば幸いです。

また、8月26日（日）と12月9日（日）にはチャレンジ熊保大！（推薦入試対策講座、一般入試対策講座）を開催いたしました。このイベントは地元の大学予備校・壺溪塾の先生方による本学の入試対策を教授いただくものですが、こちらも多数の方々が受講されました。本学にご来学いただきました皆様・壺溪塾の先生方に対し、心よりお礼申し上げます。（広報課）



「リハビリテーション学科 合同就職説明会」

9月21日（金）、本学新アリーナにてリハビリテーション学科を対象に合同就職説明会を開催いたしました。その主たる目的は、施設情報を把握するとともに、自分の職業観を確認し、進路決定の一助とするものです。当日は熊本・九州を中心に関東・関西方面を含め、78施設（県内34施設、県外44施設）の採用関係の皆さまにご参加いただきました。実習等で関わりの深い施設の先生方や本学卒業生も参加されており、和やかな雰囲気で行うことができました。学生たちは熱心にメモを取りながら話を聞き、積極的に質問をしていました。具体的な情報を直接聞くことができただけでなく、就職に対する意識を高めることができましたと思います。4年生はこれから就職活動が本格的に開始いたします。自分たちの納得のいく就職活動ができることを期待しています。

ご参加いただきました各施設の皆さま、本当にありがとうございました。（就職支援課）



ローソン熊本保健科学大学店オープン

長年、本学学生や教職員から何度も強く要望されていたものとして「コンビニエンスストアの誘致」と「ATMの設置」がありましたが、このたび、ついに学内売店として、コンビニエンスストア・ローソンの誘致が実現する運びとなりました。9月25日にはオープニングセレモニーとして学長等の挨拶に続いて、学友会会長等がテープカットを行い、無事開店を迎えることができました。

これまで以上に、弁当、おにぎり、飲み物、お菓子など商品の品揃えが充実するほか、公共料金収納サービスやチケット購入などの各種サービスもさらに拡充されることとなりました。ATMも利用可能となり、10月15日にはローソン銀行も設立されるなど、学生や教職員にとって利便性が格段に向上することが期待されています。

開店を待ちわびていた学生達が、早速開店セール対象品や飲料などを買い求め、店内は大いに賑わっていました。（経営戦略課）



9月29日（土）、本学にて医学検査学科3年生、理学療法学専攻2年生、生活機能療法学専攻3年生、言語聴覚学専攻2年生を対象とした保護者会を開催いたしました。その主たる目的は、「学生本人が長期の学外実習をより有意義なものにするため、保護者の皆さまと大学教職員が協力してサポートしていく会であること。さらに、今後の国家試験・就職活動を成功裏に導くためのスタートの日にすること」です。まずは、崎元学長による大学の概要説明に始まり、各学科・専攻に分かれての分科会、担当教員との個別面談などが行われ、活発な意見交換がなされました。当日は、医学検査学科95名、理学療法学専攻24名、生活機能療法学専攻31名、言語聴覚学専攻19名の保護者の方々にご来学いただきました。これから始まる長期実習に向けて学生の皆さまが安心して臨めるよう、保護者の方々と一緒にサポートしていきたいと思っております。

週末にも関わらず、ご参加いただきありがとうございます。 (就職支援課)



10月31日に熊本県臨床検査技師会 会長 田中 信次先生（日赤熊本健康管理センター）を来賓としてお迎えし、医学検査学科3年生112名が参加して臨地実習認定式が行われました。

この臨地実習認定式は11月5日から47日間の日程で実施される臨地実習前の臨地実習前教育（臨地実習に臨む心構え、社会人としてのマナー、臨地実習時に必要な知識の再確認等）の最終日に行われます。

臨地実習認定式では、学長から学生一人一人に「おめでとう」の言葉と認定証が授与され、学生は「ありがとうございます」と受け取っていました。学長訓示では「臨地実習において自己管理の重要性、対人関係における報告・連絡・相談の重要性、責任感を持って臨む姿勢の大切さについて」の話があり、その後、学生による「ヒポクラテスの誓い」の宣誓、来賓の田中先生の訓示、医学検査学科長訓示があり、厳かな雰囲気の中、臨地実習認定式は滞りなく終了しました。



10月17日水曜日さわやかな秋晴れの中、12：30より平成30年度動物慰霊祭を執り行いました。初めに動物たちの御霊に感謝の意を込めて黙とうを行いました。

次に大学を代表して慰霊の詞を安部副学長・学術研究部長が「今日の生命科学・保健科学の進歩は動物実験の支えなくしてはあり得ず、これらの動物に対して深い思いやりと感謝の念を忘れてはなりません。研究や学生実習に命を捧げた多くの動物の御霊に心より感謝し謹んで冥福を祈ります」と述べられ、また学生を代表して医学検査学科3年 松成謙介さんは「本学の実験研究において犠牲となった数多くの動物の御霊に心から感謝申し上げ、深くお祈りいたします」と述べました。

最後に大学を代表して安部副学長・学術研究部長、田中実験動物委員長、齊藤法人局長、学生を代表してリハ学科生活機能療法学専攻の東 千尋さんが献花を行い、動物慰霊祭は無事終了しました。

終了後にも参列していた学生・教職員が献花を行い、本学の実験動物として犠牲になった動物たちの御霊に感謝の祈りを捧げました。(総務課)



実習体験レポート

医学検査学科



医学検査学科 3年
平岩 孝一

臨地実習では検体・生理検査といった検査技師の業務を指導して頂いたり心臓カテーテル治療や核医学検査の見学もさせて頂きました。医師からオーダーされた検査をただするのではなく、患者様の基礎疾患やその背景を考えながら検査を提案していく検査技師の姿を見て感銘を受けました。生理検査には神経伝導速度検査など負荷がかかる検査があります。可能な限り患者様に負荷をかけないよう患者様へのわかりやすい説明や迅速で正確な検査が必要だということを学ばせて頂きました。心電図検査の見学をさせて頂いた後に、患者様が笑顔で「ありがとう」と言ってくださった時はとても嬉しかったです。この思いをこれからの学習の原動力にして苦しんでいる人を救える検査技師になれるよう精進していきます。最後に、御多忙の中指導して頂いた医療スタッフの皆様、先生方、その他お力添え頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。

看護学科

看護学科 3年
春木映里佳

実習に行く前、私は患者さんとコミュニケーションをとることを苦手としていたため、とても不安でした。しかし、実際は入院中という大変な時期でも学生に優しくして頂きました。

その中でも印象に残っていることは、精神看護実習での患者さんとのコミュニケーションです。最初、患者さんは硬い表情で、会話もあまり続かず緊張感のある空気でした。しかし、実習の2週目になると患者さんの方から様々な話をしてくださり、笑顔も見られるようになりました。共通の話題を通して、患者さんと心の距離が縮まったと実感することができました。

実習を終え、看護の視点やコミュニケーション技法が身に付いたと実感しています。さらに、自分自身の特徴や傾向を客観視することができるようになりました。実習を通して講義で学んだことを生かし、考え、実践することはなによりも自分の成長につながると学ぶことができました。

リハビリテーション学科



リハビリテーション学科
理学療法学専攻 4年
坂本 知晟

臨床実習では急性期から回復期、在宅でのリハビリテーションについて学ぶことができました。その中で一番大事だと感じたことは患者様に向き合うことです。

大学で学んだ検査や訓練を実施してみても、上手くいかないことがありました。その時バイザーの先生からの患者様の立場になって考えてみてという言葉で、治療プログラムを考え直すことができました。患者様の性格や生活リズム、疾患に対する不安などを考えていくことで訓練中のコミュニケーションなどもより有効的なものとなり患者様の不安や悩みを聞き出すことができました。そうすることでより効果的なプログラムを立案でき、患者様自身も訓練の意図がわかるようになり積極的なリハビリができました。

実習で様々な経験をして、自分の知識不足を実感することも多くありましたが、患者様に寄り添うことの重要性を学べてとてもいい経験になりました。

助産別科



助産別科
北林 愛輝

助産学実習では、妊娠期から乳幼児期まで、多くの母子やそのご家族と関わらせていただきました。その中でも、分娩実習での11例のお産はとても記憶に残っています。ご夫婦で出産に臨まれる姿や初めて我が子を抱く瞬間を見て、出産という人生の中で貴重な時間をお母さんやご家族が良い思い出として残せるように、助産師としてサポートしていきたいと改めて実感しました。また、地域での実習では、入院中に困ったこと、助産師への要望などを育児をされているお母様方から聞くことができました。妊娠期、出産時の病院でのサポートだけでなく、退院後の地域での継続したサポートの重要性を学びました。今の自分には専門的な知識・技術がまだまだ不足していますが、今後この実習の学びを活かしながら勉学に励みたいと思います。最後に実習で関わらせていただいた皆様、お力添えいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

就職活動ルポ



2018年3月卒業（看護学科）

林田侑里亜さん

看護師
東京大学医学部附属病院

私は現在東京大学医学部附属病院で看護師として働いています。知識や技術、先輩方から看護師としてのコミュニケーション方法などを学びながら業務に励んでいます。

私が就職を意識しはじめたのは3年の実習終了直後です。何から取り組めば良いかわからず、まず就職支援課でアドバイスをもらい、将来どのような看護師になりたいのか、どのような病院が良いのか考えながら実習を一つ一つ振り返りました。

やりたいこと学びたいことが幾つかあり、病院を決めきれず何度も就職支援課で面談し、やりたいことが幾つかあるのならば幅広く学ぶことができ、自分で選択しながら成長できる環境が良いのではとアドバイス受け、今の病院に決めました。

その後は就職試験に向けて先輩方の就職レポートから情報収集し、就職支援課や看護学科の先生方に助言をもらいながら履歴書の作成、面接練習を行いました。面接練習では個人個人にじっくり時間を割き、的確なアドバイスをくださるので何度も練習を繰り返すことで自信がついていきました。

就職では悩みや不安を感じることもあるかと思いますがしっかり自分と向き合い、悔いの残らないよう全力で取り組んでください。皆さんが医療人として生き生きと働くことが出来るよう応援しています。



2018年3月卒業

(リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻)

岡本真理子さん

言語聴覚士
社会医療法人社団 熊本丸田会
熊本リハビリテーション病院

私は現在、熊本リハビリテーション病院で言語聴覚士として働いています。回復期病棟という集中的なリハビリを提供できる環境で、日々新たな学びや発見をしながら業務に励んでいます。

私は就職活動の時期、自分がどのような病院で何がしたいのかが明確に分からずにいました。次々と周りの就職先が決まっていく中で、なかなか行動を起こせず、漠然と焦りを感じている時期もありました。しかし、友人や先生方に相談したり、就職支援課の方々からの確かなアドバイスを頂きながら自己分析を行う中で、自分の目指す言語聴覚士像が明確化し、退院後の生活を見据えながら重点的にリハビリが行える回復期の病院で働きたいと強く思うようになりました。

試験対策では、特に面接練習に力を入れました。多くの方と練習することで様々な角度からアドバイスを頂くことができ、また回数を重ねたことも自信となり、当日はとっさの質問にも焦らず答えることが出来ました。

国試対策との両立は大変ですが、支え合える友人や信頼できる先生方、スタッフの方々の存在は本当に心強いです。一年後、共に現場で働く仲間となれることを楽しみにしています。

研究ノート



大学院
保健科学研究科
臨床検査領域 2年

福島 摩紀

私は、血小板輸血製剤 (PC) の低温保存に関する研究を行っています。PCは、血小板数の減少または機能の異常により重篤な出血ないし出血の予測される病態に対して、血小板成分を補充し止血または出血防止を目的として輸血されます。

血小板濃厚液の有効期間は採血後4日間と短く、遠隔地においては入手に長時間を要することがあります。また、現在の保存条件では細菌汚染 PC 輸血による死亡例があります。

そこで、細菌汚染のリスクの低い低温保存に着目し、ウエスタンプロット法やフローサイトメータを用いた研究を行っています。至適な低温保存での有効性を確認することにより、より安全な PC の提供に役立てたいと考えています。

地域連携

地域連携委員会の活動報告

地域連携委員会では(1)健康福祉関連分野で地域連携に関する活動、(2)社会連携の円滑遂行に関する活動、(3)地域団体との連携拡大活動、(4)ボランティア活動の取り組みと支援を活動内容としています。

これらの目的をふまえたうえで、本学では毎年地域ぐるみの様々なイベントに学科の特性を活かした内容で参加しています。活動の一部をご紹介します。(地域連携事務局)

城北校区「ふれあいの日」

10月7日(日)熊本市の城北小学校PTA主催行事、城北校区「ふれあいの日」が開催され、北区役所保健子ども課と共同で行う健康コーナーおよび本学看護学科の高齢者体験コーナーにて参加いたしました。(学生18名、教職員6名)

健康コーナーでは看護学科が血圧測定、医学検査学科は骨密度・体成分の検査を行い、近郊住民、生徒保護者の方々60名に来て頂きました。看護学科担当の高齢者体験コーナーでは、高齢者疑似体験として、ゴーグルや耳栓、手袋を装着し、老化による視覚・聴覚・触覚の変化を小学生やそのご家族等160名を超える来場者に体験していただきました。この項目は初めて行いましたが、「信号の色が見えにくい」「聞こえにくい」「紙がめくりにくい」等の声が多く聞かれました。また、「大好きなおばあちゃんに、今度会ったらどうしようか」と小学生の子どもさんと保護者の方が話し合う場にもなっていました。今回の体験が、高齢者にやさしい地域づくりに繋がることを願います。



「第28回ふれあいフェスタ in ほくぶ」

(11月3日(土)～11月4日(日) 会場：北部武道館)

11月3日(土)～11月4日(日)「第28回ふれあいフェスタ in ほくぶ」に参加してまいりました。本学は毎年こちらのイベントの健康フェアコーナーを北区保健子ども課などの4団体と協力して行っており、医学検査学科が体成分測定・骨密度測定・血管年齢測定を、看護学科が身長体重測定・腹囲測定・血圧測定を行いました。また、3日(土)のプログラムである「情熱ライブステージ」には本学とお隣の崇城大学の吹奏楽部が合同で出演し、見事優秀賞をいただきました。



「フードパルフェスタ 2018」

(11月3日(土)～11月4日(日) 会場：熊本市食品交流会館)

11月3日(土)～4日(日)株式会社フードパル熊本主催「フードパルフェスタ 2018」に参加してまいりました。今年度はリハビリテーション学科の理学療法学専攻と生活機能療法学専攻の教員及び学生が握力・脚力・敏捷性・柔軟性などを測定する項目を行いました。脚力を測定する「立ち上がりテスト」は、日本整形外科学会が推奨するロコモ度テストの中の一つで、4種類の高さの台のそれぞれから両脚または片脚で立ち上がれるかどうかを調べ、下肢[太ももの付け根から足のつま先まで]の筋力を評価します。全ての測定を行った後は、学生が現在の体力を評価し、今後の体力アップにつながるアドバイスを行うという形をとっておりましたが、利用された方々は熱心に聞き入っておられた様子でした。



国際交流

大邱保健大学・コンケン大学交換研修生

7月1日(日)～7月14日(土)に大邱保健大学から7名、コンケン大学から2名(PT)の学生を受入れました。大邱保健大学の学生は携帯アプリを駆使してコミュニケーションを取る様子が印象的でした。2週間という短い期間ではありましたが、実習、講義、病院見学、日本語交流、日本文化体験等をしていただきました。韓国、タイの学生にとって貴重な経験になったのではないのでしょうか。また、毎日の交流を通して本学の学生にとっても視野を広める良い機会となったことでしょうか。一方先日行われた本学からの派遣学生による帰国報告会では、韓国、タイの学生への感謝の言葉と、それぞれの国での体験が非常に有意義だった旨が報告されました。来年度も双方の学生にとって良い経験になるようプログラムの充実を図っていききたいと思います。(国際交流委員会)



Global Student Leadership Program 体験報告



看護学科2年
前島 史佳

私は8月9日から約10日間、韓国の大邱で行われたGSLPに参加させていただきました。このプログラムでは、10か国の仲間と共に寮で共同生活をし、講義やプレゼンテーション、異文化体験、病院見学や市内観光をしました。価値や文化の違う仲間と共に行動し、意思疎通しながら様々なことを感じ新しいことを学んだ日々はとても刺激的でした。そして、相手を理解しようとする、自分の可能性を信じて挑戦することの大切さを知りました。実際の体験を通してこれまでに見えていた世界がグンと広がったように感じ、このプログラムに参加して本当に良かったと思います。この経験を糧に今後も自分の可能性を信じて様々なことに挑戦していきたいです。

貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



大邱保健大学との交換研修



看護学科1年
宇土 和奏

私は、交換研修生として韓国の大邱保健大学に2週間行かせていただきました。授業や病院見学、観光などを通して、異文化に触れることで、新たな発見や違った見方、考え方をすることができ、とても大きな経験をすることができました。また、現地の学生の方々も本当に良くしてくださり、2週間とても充実していました。そして、この研修に参加した7人が互いに助け合いながら、成長することができた研修だったと思います。ここで学んだこと、吸収したことをこれから様々な面で生かしていきたいです。このような機会を設けて下さった方々、サポートして下さいました。本当にありがとうございました。



コンケン大学との交換研修



リハビリテーション学科
理学療法専攻3年
山口 未光

今回、2週間コンケン大学への交換研修に行って一番心に残ったことはタイの人々の温かさ笑顔です。私はもちろんタイ語をほとんど話せず、英語も達者ではありません。会話手段は主に英語のため、意思疎通が難しい時も多々ありました。しかし、コンケン大学の学生達はもちろん、先生方や寮母さん、その他多くの人が私たちを笑顔で受け入れて下さりました。タイの生活では日本と異なるところが多く、慣れないことも多かったですが、タイの人々の温かさ・笑顔はとても魅力的でした。タイのリハビリを学ぶ良い機会でもありましたが、タイという素敵な国へ行けたことが人生のいい経験となりました。





研究室紹介

看護学科 准教授 徳永 郁子

患者に提供された看護の質の評価において、患者のアウトカムは実践の指標の一つとなります。クリニカルナースリーダー (Clinical Nurse Leader、以下 CNL) は急速に変化する米国の医療環境に対応するため、臨床実践の現場、研究、教育の現場が協働して 10 年前に開発された大学院修士課程における米国の認定資格ですが、患者のアウトカムの向上のみでなく、コスト削減や看護職務満足度の向上、離職率の減少へも効果をもたらしています。臨床現場でエビデンスに基づき分析を行い、様々な理論を用いた方法で結果を早期にもたらし、看護の質向上を具体的に示す役割を担っています。看護の質向上に関する研究で、看護業務の指標がどのように質の向上に貢献するのか、低下させる要因は何か検討を行ってき

ましたが、日本で CNL の要素をどのように看護教育に活かすことができるか興味深いところです。

ハラスメントは看護師の仕事の効率を悪くさせ、効率が低くなると患者のケアに影響を及ぼし、看護の質が低下するという研究があります。仕事に集中できない、スタッフ間のコミュニケーションがとれないなど、言葉の暴力だけでも職務満足度の低下や自信の喪失につながり、仕事が手につかず、これらが離職につながるケースもあります。ハラスメントを助長するものとして職場環境や組織風土、個人の態度、教育などがあげられます。もしハラスメントが看護師の業務に支障をきたし、患者のアウトカムに影響ができれば、CNL は病棟で何がおきているのか、あらゆる点から分析をすることから始めるでしょう。通常、看護師が患者への援助や業務をこなしながら病棟でおきる問題を勤務時間内に解決するのは容易ではありません。しかしながら CNL は通常の看護業務ではなく、臨床現場の問題解決とケアの質の管理を行うことが仕事です。このように専門臨床での実践を通して、患者のアウトカムや医療全体の質の向上を図ることを専門とする人材が日本で活躍してほしいものです。

～新任教職員紹介 ようこそ、熊本保健科学大学へ～

認定看護教育課程

松尾 里嘉

(まつお りか)

脳卒中リハビリテーション看護分野
専任教員

10月1日より認定看護師教育課程、脳卒中分野の専任教員として勤務をさせていただいております。熊本赤十字病院から半年間の出向で参りました。認定看護師としての経験を踏まえ、研修生と共に学び、身近な存在としてサポートしたいと考えております。教員として不慣れな事も多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、専任教員の役割を果たすことが出来るように精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

法人事務局・大学事務局

藤本 真紀

(ふじもと まき)

広報課・入試課
一般嘱託職員

これまで派遣社員としてお仕事をさせていただいておりましたが、10月1日より、一般嘱託職員として勤務することになりました。

看護学科事務時代を含めると、5年4ヶ月皆様には、たくさんのお話を教えていただき、学ばせていただきました。

これからも、感謝の気持ちを忘れずに、日々みなさまのお役に立てるよう、頑張っていきたいと存じますので、今後ともよろしくお願いいたします。

Library

図書のご紹介 図書館蔵書の中から

○図書館学生選書ツアー第4回(6/23)、第5回(11/3)を実施しました。第4回は、まるぶん書店に集合。学生さん4名160冊、第5回は、大学からなんと館長飯山先生運転のワゴン車で出発！南区の紀伊國屋書店で150冊を各自選びました。参加者からは「自由に選べて楽しかった。」「また参加したい。」との声。医療系専門書のほかにも生活、文学、社会学・・・さまざまな分野を選んでくれました。選書ツアーコーナーに学生のコメント付きで展示しています。

○『サイエンスカフェ』第1回を開催(11/13)しました。『私の部屋でランチを』も30回を越え、さらに専門分野に特化した『サイエンスカフェ』を毎月第1火曜日に開催します。第1回はリハビリテーション学科の松原誠仁先生による『人の動きを科学する一日常生活動作からスポーツまで』というテーマで開催しました。

○館外ラーニング commons のキャンパステラスの開室時間を2時間延長し、21:00までとしました。学生の自主的な学修活動を支援します。



電子ブック『Maruzen eBook Library』に動画が加わりました！

すでにDVDとして所蔵し講義等でも視聴している『目で見る解剖と生理』他、続々と購入中。スマホでも視聴できますので、各自、講義の復習や実習前の予習、学外実習先からも利用できます。図書館 OPAC で検索し、電子ブックと同じ方法で利用できます。(学内者限定)

CIRCLE INFORMATION

mimic

こんにちは！mimic(ミミック)です！私たちは主にアイドルなどの踊りを完コピして踊っています！例えば、black pink、BTS、あいみょん、TWICE、E-Girls などなどたくさんです！これまでに、杏祭で発表させて頂いたり、学外イベントのオファーも頂くこともありました！活動日は毎週木曜日の放課後で、場所は旧アリーナです！現在30名程で活動していて、先輩後輩関係なくワイワイ楽しいです♡杏祭などでは自分たちで決めた可愛い衣装も着れちゃいます♡ほとんどがダンス未経験者ですが完コピならmimicにお任せ下さい！

代表 看護学科2年 佐々木 梨乃

部員 30名

活動場所 旧アリーナ



アクティビティクラブ

私たちアクティビティクラブは、主に夏休みを中心に障がい福祉サービス事業所ケア・ハピネスさんを訪れ、ボランティア活動をさせて頂いています。様々な利用者の方と触れ合い、実際の現場を直接見ることで、貴重な体験をすることが出来ます。また、ケーキ作りや絵手紙、陶芸体験など、講師をお招きしての学外アクティビティも行っています。ここで体験したことは、実際に臨床に出た際に、役に立つこと間違いなしです！現在OTの学生しかいませんが、どの学科・学年からでも大歓迎です！是非一緒に楽しく活動しませんか？

代表 リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻 2年
中島友哉

部員 40名

活動場所 主に学外





心を投影する小さなボール

リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻
准教授 大塚 裕一

ゴルフを始めて 20 年ほどになる。一向に上達せずコンペではいつも自分のイメージとはかけ離れた成績で終わる。始めた頃は止まっているボールをただ打つだけなのだから簡単だろうと思っていた。これが難しい。そもそも、思っているところにボールがまっすぐ飛んでくれない。悲しいほどに曲がる。「皆より飛ばしてやろう!」「ここで上手くバーディーとれば彼に勝つぞ!」様々な邪心がボールを曲げる。そこで勉強する。ボールは自分の感情を映す鏡である。曲がる場合は自分の心に邪心があるのだ。つまり、自分の気持ちがあるままボールに投影されるのである。

臨床心理学で、カウンセラーが対象者をカウンセリングす

る時の基本的な姿勢として、相手を映し出す鏡になるという考えがある。この方法は、カウンセラーは対象者に基本的には意見はしない。カウンセラーは鏡のように振る舞い、その鏡をみることで対象者自ら問題点に気づくように誘導し、自身を見つめ直すきっかけを与えるという手法をとる。つまり、カウンセリングではカウンセラーは心を表す鏡になることが大切であるという考えである。

さて、ゴルフ時には、あの小さなボールがカウンセラーに変わって鏡のような環境を作り出す。つまり「あらぬ方向にボールが飛んでいくのは、心の状態を表した結果としての様々な邪心があるのだ。冷静に無心で、欲することなくクラブを振るのだ・・・」等、心の動きをボールが教えてくれ、自身の心の状態を見つめさせるわけである。どうやらあの小さなボール、カウンセラー役をになっているようだ。とはいえ、毎回カウンセリングは成功せず、また叫ぶ訳である「ふあ~~~~」。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

将来ビジョン 保健医療系大学として、我が国のリーディング大学のひとつとなる

ビジョン 1

社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1

教育改革の推進と
学生ファーストの修学支援

ビジョン 1-2

独創的な研究の推進と
大学院の充実

ビジョン 2

地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1

教育・研究組織の充実

ビジョン 2-2

魅力的な教育・研究環境の充実

ビジョン 3

10年後も 20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化

ビジョン 3-1

学生・教職員の国際力の向上と
海外の大学等との連携強化

ビジョン 3-2

教員と職員が協働する
効率的・合理的な職場環境の構築

編集後記

今回のぎんきょうでは最初に本学のブランドコンセプト等についてお知らせしております。学園の活動として毎年同じことを繰り返すのではなく、新しい企画と活動が不可欠だと思います。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において平成 26 年度大学機関別認証評価を受審し、平成 27 年 3 月 10 日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。

GINKYO GAKUEN TSUSHIN
“GINKYO” No.39

●学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学

〒861-5598 熊本市区和泉町325番地
TEL096-275-2111 FAX096-245-3126

<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

●発行日/平成31年1月29日